

『すいどう』

百木 一朗／さく
福音館書店



みんながまいにちつかっているすいどうの水はどこからきて、どこにいくのでしょうか？じつは、すいどうの水は空からふる雨なのです。いったい雨の水がどうしておうちのじゃぐちからでてくるのでしょうか。そしてつかったあとの水は、どこにながれてどうなるのでしょうか？この本がすべておしえてくれますよ。

『たんぼのにんじゃ あまがえる』

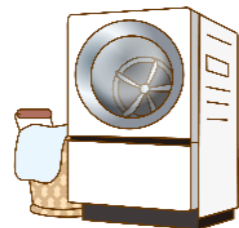
谷本 雄治／文
サトウ マサノリ／絵
文溪堂



みんなの家のまわりで、田うえがはじまると、かえるの歌がっせんもはじまります。あまがえるは、てきからみをまもるために、水の中をすいすい。きゅうばんのようなじまんの足でかたいところへもぴよん。体の色もじゆうじざい。まるでにんじゃ。それではあまがえるの一年間をのぞいてみよう。

『せんたくかごのないしょのはなし』

こがしわ かおり／作
あかね書房



サボンはせんたくかごをかかえてママのおてつだい。すると、とつぜんつむじかぜが。きがつくと、サボンはすっぽりとせんたくかごをかぶっていました。かごのあみめからぬけだしみえてきたのは、たのしそうにはたらくちいさなものたち。そこは「おせんたくのくに」だったのです。

2023年とんだばやしりつとしょかんから

1ねんせい・2年生のみなさんへ なつのおてがみ



なつ
あつい夏がやってきた！

たくさんあそんでつかれたら、
本を読んでみませんか？

新しいはっ見が
あるかもしれません。



よ
読みつがれてきた名作

『からすのパンやさん』

かこ さとし／作・絵
偕成社
1973年



いずみがりからすのパンやさんがありました。そのおみせには4ひきのこどもがいました。こどもたちのおやつはしっぱいしたパンです。そのパンがまわりのからすたちのあいだでひょうばんになり、みんながかいにくることに。そこでからすのパンやさんはみんなでかんがえて、とつてもすてきなかわったかたちのたのしいおいしいパンをたくさんつくりました。

『あわあわわあい！』

ジャクリーヌ・デイヴィーズ／さく
ソニア・サンチェス／え
林 木林／やく
ほるぷ出版



プールにきたよ。水の中ではなんにでもなれる！イルカにながれぼし、ロケット。自由におよげるんだ。ママとおとうとがプールのちかくであそんでいる。でも、わたしはともだちとたくさんあそぶの。あ、おとうとがプールにおちそうになってる！まかせて、わたしはイルカになれるから。すぐにおよいでたすけるからね。

『なかよくなれるかな』

今井 福子／作
いつか／絵
文研出版



うさぎのチュロに会いたいなあ。でも、ししくがかりのおにいさんはいつもおこってばかりでちょっとこわい。ししくごやに行きづらいな。なかよしのたけちゃんは、あのおにいさんのことやさしいっていうけど、ほんとかな？ある朝、いつもみたいにチュロに会いにきたら、チュロがいなくなっちゃった！にげちゃったの？さがさなきゃ。

『まっくらあそびしようよ！』

はた こうしろう／作
ほるぷ出版



おばあちゃんの家におとまりにやって来た兄弟。ところが、へやがまっくらで弟はなかなかねむれません。そこでお兄ちゃんが、まっくらあそびしようか？と弟をさそいます。まっくらなへやでライトをふり回して、そのしゃしんをとってみると、どんなことがおこったのでしょうか？みなさんもぜひまっくらあそびにちょうせんしてみてください。

『おてがみほしいぞ』

こうまる みづほ／作
丸山 誠司／絵
あかね書房



オオカミのギロンがさかなつりをしていると、ヤギがゆうびんはいたつをしているのが見えました。てがみをうけとったりス、ウサギ、キツネはみんなおよろこび。ギロンもてがみがほしくてたまりません。「だれかにてがみをかいたら、へんじをもらえる」とおしえてもらったギロンは、さっそくじぶんからじぶんへのてがみをかきます。

『じゅんびのいらないしぜんあそび2 なつであそぼう』

高橋 京子／監修
国土社



さあ、夏休み。みんな、なにであそぶ？おもちゃがなくても、水やすなや花をつかってあそぶことができますよ。ぴかぴかのどろだんごや、いろいろな花からできるいろ水のつくりかた、ほかにもたくさんのおそびかたがのっています。みんなで水はこびをしたり、ペットボトルで水でっぼうをつくって、おもいっきりあそびましょう。

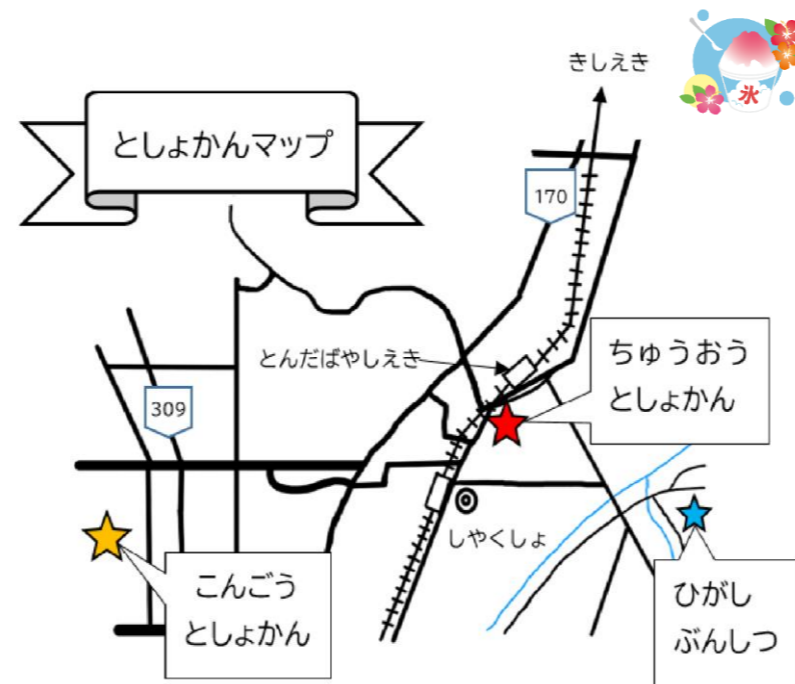
『草はらをのぞいてみればカヤネズミ』

日本でいちばん小さなネズミの物語』

ゆうき えつこ／文
福田 幸広／写真
小学館



草はらにすむカヤネズミは、体長6センチメートルの日本でいちばん小さなネズミです。カヤネズミは葉っぱを細くさいてまげて巣を作ります。そして、その巣で子育てをします。かまきりが巣に近づきます。子どもがあぶない。おかあさんは子どもをくわえて飛びだしました。子どもを生む前に作っておいた別の巣へ全力で走って引っこしです。



『図画工作 de たのしい作品づくり こすりだし・すりだし』

柴田 芳作／監修
国土社編集部／編
国土社



こすりだしとは、でこぼこしたものの^{うえ}に紙をあてて、色えんぴつやクレヨンなどでこすってもよううつすことです。「フロッタージュ」とよばれたりもします。こすりだしをすると、目で見ていたものとはちがうもようが、うかびあがってくることがあります。うかびあがったもようをくみあわせて、自分だけのもようを作ってみてください。

『だれもしらない小さな家』

エリナー・クライマー／作
小宮 由／訳
佐竹 美保／絵
岩波書店



だれからもみむきもされなくなった小さな家がありました。でも、アリスとジェーンはちがいます。よく学校のかえりにこの小さな家をのぞいていました。だれもすまなくなった小さな家はだんだんほこりっぽくなっていきました。そこでアリスとジェーンはすてきなことを思いつきました。それはこの家でおうちごっこをするということです。

*『おなおしやのミケばあちゃん』

尾崎 玄一郎／作
尾崎 由紀奈／作
偕成社



みけねこのミケばあちゃんは、だがしやのはるばあさんといっしょにすんでいます。まいにちみせばんをしています。さいきんはおきゃくさんがあまりきません。はるばあさんはおみせをしめようか、とかんがえていました。そんなあるばん、ミケばあちゃんのしごとばにこわれたおもちゃがつぎつぎとあつまってきました。